

平成 31 年 4 月 京都市上下水道局

## 目 次

| 第1 | 旧御所水道ポンプ室について           | 3  |
|----|-------------------------|----|
| 1  | 御所水道とは                  | 3  |
| 2  | 琵琶湖疏水とは                 | 4  |
| 3  | 御所水道及び旧御所水道ポンプ室の歴史      | 4  |
| 4  | 旧御所水道ポンプ室の建物概要          | 7  |
| 5  | 旧御所水道ポンプ室の現状            | 9  |
| 第2 | 旧御所水道ポンプ室の価値について        | 14 |
| 1  | 建造物の文化財的価値              | 14 |
| 2  | 産業遺産としての重要性             | 14 |
| 3  | 京都の近代化等に係る歴史的価値         | 15 |
| 4  | 蹴上エリアにおける位置付け           | 15 |
| 第3 | 保存・活用に当たっての基本的な考え方      | 16 |
| 1  | 「保存」に係る方向性              | 16 |
| 2  | 「活用」に係る方向性              | 16 |
| 3  | 「改修等」に係る方向性             | 16 |
| 第4 | 保存・活用に向けた今後の対応          | 17 |
| 1  | 旧御所水道ポンプ室の「保存」に係る取組     | 17 |
| 2  | 旧御所水道ポンプ室の「活用」に向けた取組    | 17 |
| 3  | 旧御所水道ポンプ室の「改修等」に係る取組    | 18 |
| 4  | 想定される取組のロードマップ          | 20 |
| 5  | 資金確保の手法                 | 21 |
| 第5 | 終わりに                    | 22 |
| 旧雒 | 『所水道ポンプ室の保存・活用に係る懇談会の概要 | 31 |

## 第1 旧御所水道ポンプ室について

## 1御所水道とは

御所水道とは,京都御苑(京都御所,大宮御所,仙洞御所及びその附属施設)で利用する 用水を琵琶湖疏水から送るための水道施設です。琵琶湖疏水の蹴上船溜から取水し,京都 御所で火災が発生した場合には,大日山に設けられた貯水池にポンプで揚水した水を高圧

で送水する防火機能を持つ施設でした。御所水道 完成(明治 45(1912)年)以前は、御所用水として 鴨川の水と第1疏水の疏水分線の水を利用してい ましたが、水量や水質に問題があり、宮内省は解 決のために御所水道を建設しました。旧御所水道 ポンプ室は、琵琶湖疏水から御所水道へ送る水を 汲み上げるポンプが設置された施設です。



建春門前の鉄管布設工事の様子 (写真:京都市上下水道局・田邉家資料)

【図表1】 御所水道のルートと旧御所水道ポンプ室の位置



#### 2 琵琶湖疏水とは

琵琶湖疏水は,琵琶湖の水を京都に引く水路で,「第1疏水」,「第2疏水」等からなります。 平安京以来,首都として栄えてきた京都では,明治2(1869)年の東京奠都によって,産業が 急激に衰退し,人口も急減しました。そこで第3代京都府知事・北垣国道は,工部大学校(現・ 東京大学工学部)を卒業したばかりの田邉朔郎を主任技師として抜擢し,復興のための勧業 施策の1つとして,第1疏水の建設に取り組みました。第1疏水は,その水力を活用した日本 初の事業用水力発電所である蹴上発電所の建設等へ繋がり,京都の産業発展に大きく貢献 しました。

今日でも,琵琶湖疏水は水道の水源や水力発電のほか,多目的に利用されており,その歴 史的な価値が認められ,国の史跡に登録されているほか,近代産業遺産群の構成要素として も認定されています。

## 3 御所水道及び旧御所水道ポンプ室の歴史

#### (1) 御所水道及びポンプ室の整備

宮内省は、御所水道建設に向けた綿密な調査を行い、琵琶湖疏水の建設を担った田邉朔郎とともに計画を立案し、明治33(1900)年、設計図が完成しました。その後、日露戦争(明治37~38(1904~1905)年)の影響で、建設費用が予算化されないまま数年が経過しましたが、明治43(1910)年に帝国議会で予算が承認され、宮内省の直営で建設が行われました。

旧御所水道ポンプ室は、御所水道の一施設として、琵琶湖疏水から水を取り入れるために第1疏水の第3トンネル西口下流の左岸に設けられました。第2疏水の完成と同年の明治45(1912)年までに御所水道及びポンプ室の建設工事がほぼ終了し、ポンプの据付、通水試験、高圧噴水試験が行われたうえで、同年5月14日に御所水道及びポンプ室は竣工し、落成式が行われました。



御所水道ポンプ室 明治 45(1912)年頃 (写真:京都市上下水道局・田邉家資料)



紫宸殿前での噴水試験の様子 (写真:京都市上下水道局・田邉家資料)

#### (2) 御所水道及びポンプ室の譲渡

第2次世界大戦後,京都における水需要の増加に対応するため,占領軍からの提案もあり, 大日山貯水池を浄水場のちんでん池へと改造し,名称も「九条山浄水場」へと改めました。こ の際に,御所水道及びポンプ室は,宮内省から京都市へ無償譲渡されましたが,京都御所の 防火施設としての機能は,担い続けていました。



ちんでん池への改造工事の様子 (写真:京都市上下水道局)



御所水道譲渡移管書 (写真:京都市上下水道局)

#### (3) 御所水道による京都御所の消火活動

昭和29(1954)年8月16日,京都御所内の小御所で火災が発生した際,旧御所水道ポンプ室は火災の消火活動を行うために機能しました。京都御所での出火の一報は,直ちに九条山浄水場に入り,職員が手動で御所防火用水の送水バルブを開いて送水作業を行いました。出火原因は,鴨川河川敷で催された花火大会の後,残り火のついた落下傘花火が御所に落ちたことによる引火とされています。この火災で小御所は全焼しましたが,隣接する紫宸殿や御学問所には被害はありませんでした。

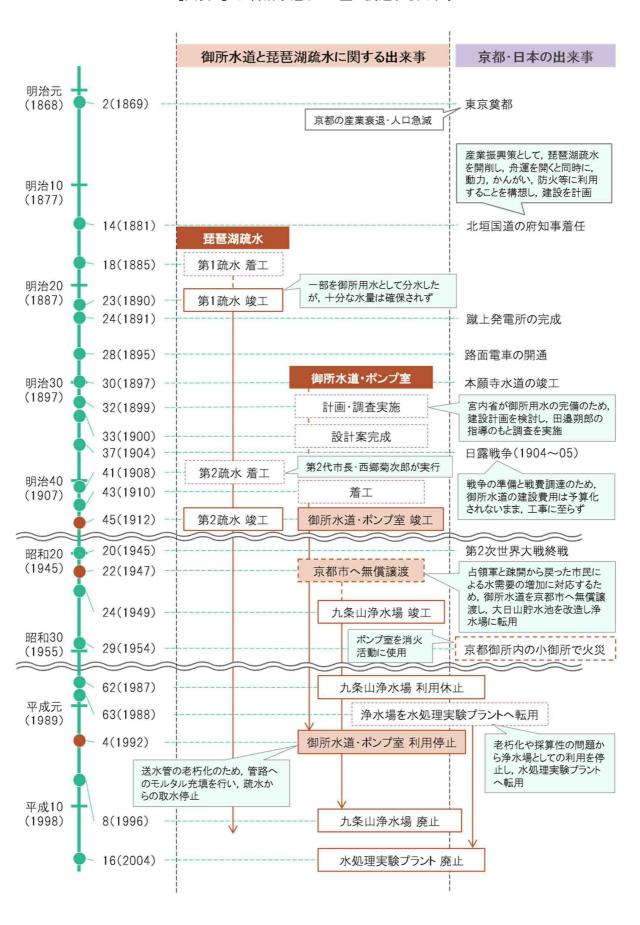
#### (4) 九条山浄水場の実験プラントへの転用

九条山浄水場(旧大日山貯水池)は、昭和 61(1986)年まで浄水場として利用していましたが、施設の老朽化や採算性の問題から、利用を休止し、昭和 63(1988)年に新しい水処理技術の開発を目的とした水処理実験プラントに改造しました。九条山浄水場は、浄水場としては平成 8(1996)年に廃止しましたが、水処理実験プラントとしては平成 16(2004)年まで活用していました。旧御所水道ポンプ室は、平成 4(1992)年に廃止されるまで、改造後の水処理実験プラントへも送水を行っていました。

#### (5) 御所水道の廃止

御所水道は、平成 4(1992)年まで京都御所への送水の役割を担い続けましたが、送水管の老朽化のため、京都御所で必要な水は地下水をポンプで揚水して供給する方針となり、管路へのモルタル充填を行い、琵琶湖疏水からの取水を停止しました。

【図表 2】 旧御所水道ポンプ室に関連する出来事



### 4 旧御所水道ポンプ室の建物概要

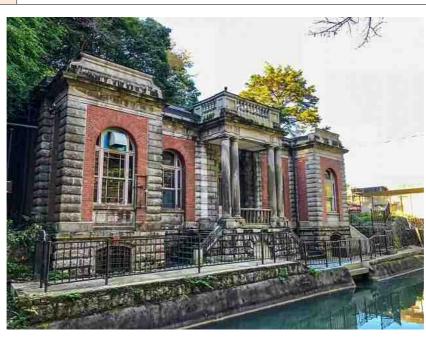
旧御所水道ポンプ室は、躯体に主に煉瓦を用い、隅部等に石を用いて積み上げられた構造となっており、地下の一部には鉄筋コンクリートが用いられています。平屋建て地下2階まであり、地下は琵琶湖疏水から流入した薬を除くための薬採場となっています。

建築様式は、ネオ・ルネサンス様式<sup>1</sup>とされ、疏水に面して円柱を建て、東側ポーチの上部 にはバルコニーが設けられています。北側出入口にはアーチを架け、屋根にはドーマーが設 けられています。

設計は、宮内省内匠寮<sup>2</sup>内匠頭<sup>3</sup>片山東熊、内匠寮技師山本直三郎によって行われ、工事は内匠寮の直営で行われました。

| 「図末っ】  | 御所水道ポン             | プタの無更 |
|--------|--------------------|-------|
| いメスマるル | - 1山げル / 11日 / 11ン | ノギの枕安 |

| 所在地                                      | 京都市山科区日ノ岡夷谷町                                 |      |                  |  |  |
|--|--|------|------------------|--|--|
| 7-4-4-4-4-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1- | 煉瓦造,平屋建(地上1階・地下2階)                           |      |                  |  |  |
| 建物構造                                     | 屋根形式: 寄棟造, 波形石綿スレート葺, 銅板葺(張出部)               |      |                  |  |  |
| 建築様式                                     | ネオ・ルネサンス様式(ポーチ, 円柱付きバルコニー有)                  |      |                  |  |  |
| 建設年月                                     | 明治 45 年竣工                                    |      |                  |  |  |
| 床面積                                      | 地上 1 階部分:約 163 ㎡ (地下 1·2 階を含むと合計·約 332 ㎡)    |      |                  |  |  |
| 建築面積                                     | 約 174 ㎡                                      | 用途   | ポンプ室(平成4年, 取水停止) |  |  |
| 設計者                                      | 片山東熊, 山本直三郎                                  | 施工者  | 宮内省内匠寮(直営)       |  |  |
| 所有者                                      | 京都市上下水道局                                     | 財産区分 | 行政財産             |  |  |
| 諸室構成                                     | 喞筒室(ポンプ室), 電機室, 事務室, 宿直室, 湯沸所, 物置, バルブ室, 藻採場 |      |                  |  |  |



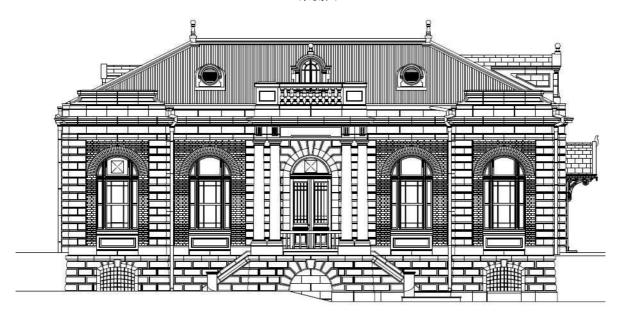
<sup>&</sup>lt;sup>1</sup> ネオ・ルネサンス様式とは、19 世紀後半にヨーロッパで流行した芸術様式で過去のギリシャ、ローマ建築を理想として復興を目指す新古典主義のうち、ルネサンス的な荘重端正な表現の復興を目指すもの

<sup>2</sup> 内匠寮とは、宮内省に置かれた部局の一つで、庭園・土木・建築に関することを管掌していた。

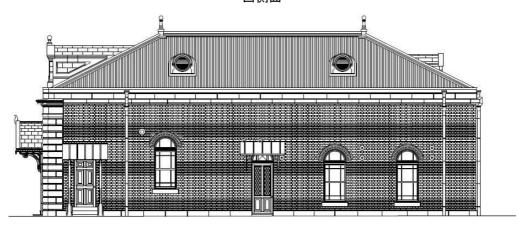
<sup>3</sup> 内匠頭とは、宮内省内匠寮の長のこと。

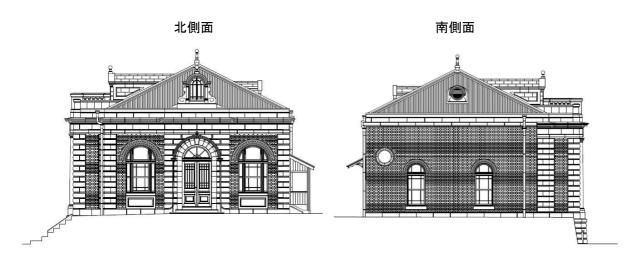
【図表 4】 御所水道ポンプ室 立面図





西側面





## 5旧御所水道ポンプ室の現状

#### (1) 旧御所水道ポンプ室周辺の施設立地状況

旧御所水道ポンプ室は,京都市山科区の北西部分,左京区及び東山区との境界に近接した日ノ岡にあり,第1疏水沿いの山裾に,水道関連施設に囲まれて立地しています。

旧御所水道ポンプ室のある蹴上エリアには、蹴上インクライン等の琵琶湖疏水に関連する 産業遺産群が立地しており、さらに蹴上エリアに隣接して、岡崎公園エリアや南禅寺・別邸群 エリアがあるなど、市内屈指の文化・観光資源が集積しています。

また, 蹴上エリアや南禅寺・別邸群エリアには, 蹴上浄水場第1高区配水池や関西電力第2期蹴上発電所, 南禅寺水路閣等, 煉瓦造建造物が集積しており, 蹴上エリアや南禅寺・別邸群エリアを特徴付けています。



【図表 5】 旧御所水道ポンプ室の位置及び周辺施設の立地状況

#### (2) 旧御所水道ポンプ室の耐震性能

平成28年度に実施した耐震診断4では、「地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は倒壊 する危険性が高く、耐震補強の検討が必要」との判定結果が示されています。また、「本建物 は、煉瓦壁体頂部の拘束が少なく、耐力壁の面外耐力が不足している」との所見も示されてい ます。

#### (3) 旧御所水道ポンプ室の建物の状況

躯体の煉瓦壁や隅部等の石材は、竣工当時のまま残ってい ます。建物外部の煉瓦壁や石材は、部分的に剥離・剥落してい たり、煉瓦の目地が抜けている等の老朽化が進んでおり、広範 囲で煉瓦表面の劣化や地衣類の付着が見られます。



①煉瓦壁外側



戸や窓といった木製建具は、現在でもそのほとんどが、竣工当時のまま残さ れています。一部の戸や窓で、後年の改修により換気扇が取り付けられたり、ア ルミ製の枠やパネルに交換されています。竣工当時のまま残されている木製の 戸や窓は、いずれも経年による劣化が進んでいます。

建物内部の煉瓦壁内側は、竣工当時の仕上げは漆喰仕上げ であったものが、後年に複数回改修が加えられて、漆喰やペイ ントが塗り重ねられています。現在, 内壁のほとんどの範囲で上 塗のペイントが剥離しており、一部では、漆喰が剥離・剥落して、 下地の煉瓦が露出しています。



③煉瓦壁内側



④ポンプ室の鋼製格天井

ポンプ室の天井は、細かい装飾を施した鋼板の格天井となっており、 竣工当時のものが残っています。一部には、もともと施されていた文様 等が残っていますが、全体的に塗装が劣化して剥離しています。

建物内に設置されている3基のポンプは、1950年から1970 年代までに製造されたもので、竣工当時のものから交換されたも のです。いずれのポンプも、全体的に表面の塗装が劣化して剥 離しています。



⑤ポンプ

<sup>4</sup> 耐震診断は,一般財団法人 建築研究協会に委託した「旧九条山ポンプ室耐震調査委託」において実施している。

#### (4) 旧御所水道ポンプ室に関連する文化財等

#### ア片山東熊の設計作品

旧御所水道ポンプ室の設計者である片山東熊は、明治時代を代表する宮廷建築家で、皇室に係る建造物を多く設計しています。片山東熊が設計等を行った作品は、11件が現存しており、国宝が1件、重要文化財が4件、登録有形文化財が4件あります。

旧御所水道ポンプ室は、片山東熊の現存する作品の中で最晩年のものと位置付けられます。

#### イ 重要文化的景観「京都岡崎の文化的景観」

旧御所水道ポンプ室は、国の重要文化的景観として平成27年10月に選定された「京都岡崎の文化的景観」の選定範囲内に立地しており、「重要な構成要素」として位置付けられています。

#### ウ史跡

琵琶湖疏水は、明治中期の日本の土木技術水準を示すとともに、舟運、水力発電、水道等を通じて近代都市としての京都の発展を支えた重要な遺跡であるとして、平成8年6月、琵琶湖疏水を構成する12箇所の部分について、国の史跡に指定されました。

#### 工 近代化産業遺産

琵琶湖疏水は、「京都における産業の近代化の歩みを物語る琵琶湖疏水等の近代化産業遺産群」の構成遺産として、平成19年に経済産業省から認定されました。

#### (5) 周辺の回遊動線と旧御所水道ポンプ室の位置

岡崎・蹴上周辺へは,多数の来訪者がありますが,旧御所水道ポンプ室は,蹴上駅から南へ進んだ場所にあり、岡崎・蹴上周辺の主な回遊動線から外れた位置に立地しています。

蹴上エリア内には、旧御所水道ポンプ室を含む琵琶湖疏水関連の産業遺産や社寺等の資源が多数存在しており、現在でも来訪者がそれらの資源の間を回遊していますが、旧御所水道ポンプ室は、蹴上エリア内の産業遺産群の中でも離れた場所に立地しており、エリア内の回遊動線からも外れています。

【図表 6】 周辺エリアにおける主な施設と想定される回遊動線

#### (6) 琵琶湖疏水通船事業の復活

#### ア 琵琶湖疏水通船の歴史

琵琶湖疏水では疏水開削後,滋賀県大津市から京都市の蹴上・夷川を経て伏見までの間で,主に物資運搬を目的とした通船が行われていました。大正末期が最盛期で,1日当たり約150 隻以上の舟が疏水を行き来していました。また,旅客遊覧船も運航され,花見の時期は,特に賑わいました。しかし,昭和になると,自動車や鉄道等,交通手段の急速な発達や戦争の影響により,舟運は徐々にその数を減らし,昭和26(1951)年に資材運搬を行って以降,姿を消しました。

#### イ 琵琶湖疏水通船の本格的な復活に向けた取組

平成 25(2013)年,京都市長及び大津市長の参加による船下り試乗会を行ったことを契機に,産業,文化,観光資源としての地域活性化への寄与等を目的として,民間企業や京都・大津両市観光協会,商工会議所,滋賀県,大津市,京都市が連携し,琵琶湖疏水通船の本格的な復活に向けて検討を進めてきました。

平成 27(2015)年には、滋賀県大津市から京都市・蹴上までの区間において「琵琶湖疏水 通船復活」試行事業が実施されました。その後も本格的な事業化に向けて実証実験的な運航 を続けてきました。

#### ウ 琵琶湖疏水通船事業の本格実施

平成30(2018)年3月から琵琶湖疏水通船事業として2隻の新しい船が本格運航することとなり、旧御所水道ポンプ室の前がその船の発着場所になるなど、琵琶湖疏水と旧御所水道ポンプ室への注目が高まってきています。





## 第2 旧御所水道ポンプ室の価値について

## 1 建造物の文化財的価値

旧御所水道ポンプ室は、ネオ・ルネサンス様式とされ、石と煉瓦の対比を用いて装飾を凝らされた非常に美しい煉瓦造建造物です。

設計は、国宝である「旧東宮御所(迎賓館赤坂離宮)」や、重要文化財である「奈良国立博物館」、「京都国立博物館」等の文化財的価値の高い建築の設計を手掛けた宮内省内匠頭 片山東熊らによって行われました。工事は宮内省内匠寮の直営で実施されており、小さな石材を組み合せるのではなく、1つの石から削って装飾を作り出しているなど、贅を凝らした材料や施工の精度が非常に高いことが伝わるものです。

また,明治 45(1912)年に竣工した建造物にもかかわらず,外観には目立った損壊や改変がなく、竣工当時の姿が状態良く残されています。

これらのことから、旧御所水道ポンプ室は、日本の近代建築の中でも文化財的価値が非常に高い、貴重な文化財であるといえます。

### 2 産業遺産としての重要性

琵琶湖疏水は、明治中期における日本の土木技術水準を示すものであり、また、舟運、水力発電、水道等を通じて近代都市としての京都の発展を支えた産業遺産です。琵琶湖疏水の水を利用し発電する日本初の事業用水力発電所・蹴上発電所の運転開始によって、日本初の路面電車への電力供給を可能とし、その開通につながるとともに、紡績、伸銅等の新しい産業の振興に大きく寄与することとなり、手工業から機械工業へと転換する過渡期だった京都産業の発展の基礎を確立しました。

旧御所水道ポンプ室は、その京都の産業発展に大きく貢献した琵琶湖疏水の構成遺産として重要なものです。



### 3京都の近代化等に係る歴史的価値

旧御所水道ポンプ室は,京都御所への防火用水を引く御所水道の施設の一つとして建設され,その設計は宮内省内匠頭片山東熊が行い,建設は宮内省内匠寮が直営で行うなど,京都御所,日本の皇室ゆかりの施設です。また,京都の電力需要・水需要の増大に対応して建設された第2疏水と同年に完成し,京都の近代化の歴史を象徴するものでもあります。

旧御所水道ポンプ室は、そのような京都の歴史を形づくる京都御所・皇室との関係性や、京都の近代化の歴史を今に伝えるものとして歴史的価値が高いといえます。

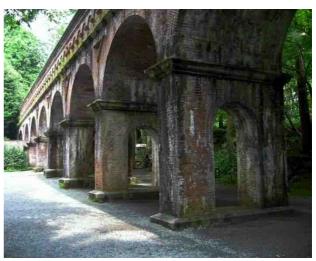
### 4 蹴上エリアにおける位置付け

旧御所水道ポンプ室がある蹴上エリア周辺には、蹴上インクラインをはじめとする琵琶湖疏水に関連する産業遺産・施設が立地しています。京都においては、社寺等、木造の歴史的建造物が多い中で、蹴上浄水場第1高区配水池や関西電力第2期蹴上発電所、南禅寺水路閣等の煉瓦造建造物が多く、このエリアを特徴付けています。

旧御所水道ポンプ室も,美しい煉瓦造建造物であり,蹴上エリアを象徴する琵琶湖疏水関連施設の重要な構成要素といえるものです。







南禅寺水路閣

## 第3 保存・活用に当たっての基本的な考え方

### 1「保存」に係る方向性

- ○旧御所水道ポンプ室は,文化財としての価値が極めて高く,丁寧な保存への配慮が必要である。建造物の重要性に鑑みて,重要文化財への指定を視野に入れる。そのプロセスとして,国の登録有形文化財への登録を目指す。
- ○今後,旧御所水道ポンプ室の文化財的価値について,全体や詳細部分にわたって価値付け するための調査・検討を更に踏み込んで行う。
- ○保存に当たっては、単に建物のみを残すのではなく、旧御所水道ポンプ室が果たしてきた役割を示すため、その機能を構成するポンプ設備や地下室等も、可能な限り残していく。

### 2 「活用」に係る方向性

- ○京都の近代化の礎となった琵琶湖疏水の価値は、明治元(1868)年から150年を迎え、市民 に再認識されようとしている。琵琶湖疏水の魅力を更に高めるため、これまで非公開としてき た旧御所水道ポンプ室の活用の方策を検討する。
- ○ただし、活用は、市民共有の財産である旧御所水道ポンプ室の高い価値を大切に保存し、損なわないという前提で、慎重に検討を行う。
- ○将来的には,琵琶湖疏水や水道事業の展示機能を設置するほか,蹴上エリアとの一体的な 活用を検討する。また,旧御所水道ポンプ室に幾度も訪れたくなるような活用を目指す。

## 3「改修等」に係る方向性

- ○保存修復に当たっては、極めて高度な技術的水準が要求されることが明確である。全国の最も優れた事例となるべく、文化庁等の文化財保護の公的機関と協議しながら、慎重に取り組む。
- ○現状では建造物の耐震性は確保されていないが、この建造物の価値を、未来に継承していく ために、最も適切な改修方法を慎重に検討する。
- ○一方で,経年劣化等が進み対策が必要な箇所があり、そのような部分については優先的に 補修等の対応を行うことも検討する。

## 第4 保存・活用に向けた今後の対応

## 1旧御所水道ポンプ室の「保存」に係る取組

#### ■ 文化財的価値の詳細調査・検討

旧御所水道ポンプ室の全体や詳細部分について, 文化財的価値を明らかにするため, 更に詳細に調査・検討を行います。

#### ■ 早急に対応が必要な箇所の補修

旧御所水道ポンプ室のうち、窓や戸といった木製建具等、劣化して本来の機能を果たさなくなっている部分や、今後、更に劣化が進むことで、オリジナルの部材が失われる可能性がある部分については、文化財的価値の詳細調査と並行して、早急に補修等の対応を行います。

#### ■ 文化財指定・登録に向けた手続(関係機関との協議等)

旧御所水道ポンプ室の文化財的価値の詳細調査・検討の結果に基づき,文化財指定・登録に向け文化財保護の関係部局・機関との協議等を行い,必要な手続を進めていきます。

### 2旧御所水道ポンプ室の「活用」に向けた取組

#### (1) 建造物の「活用」に向けた取組

#### ■ 旧御所水道ポンプ室の活用方策の検討

文化財的価値の詳細調査における検討や議論を踏まえて、文化財的価値を損なわないことを前提とした活用方策を慎重に検討します。

#### ■ 一時的な活用の実施及び情報発信

活用方策の検討や、改修等に向けた取組と併せて、期間や範囲を限定して、外観又は内部を公開するなど、可能な範囲で一時的・暫定的な活用を行うとともに、本格的な保存・活用に向け、認知度の向上を図るための情報発信を行います。

#### ■ 活用に必要な整備

保存・活用のための改修等を行った後に、建物内部の改装工事、設備整備、展示工事等、 旧御所水道ポンプ室の活用に必要な整備を行います。整備に当たっては、旧御所水道ポン プ室の文化財的価値を損なわないことを前提とします。

#### (2) 水道関連施設の再編

#### ■ 既存施設の廃止による活用可能スペースの創出(視認性の向上)

新山科浄水場 導水トンネル築造工事と併せて、今後10年間を目途に、旧御所水道ポンプ室周辺の水道関連施設の再編を行い、廃止施設を撤去する予定です。これによって、これまで非公開であったポンプ室周辺を外部から見えやすくするとともに、ポンプ室の周辺に付帯施設や広場を整備できるスペースを創出します。また、将来的に、景観も含めたポンプ室周辺の魅力向上に資する環境整備を行います。

なお、ポンプ室付近には、取水池をはじめ、多くの水道施設があります。ポンプ室の保存・ 活用に当たっては、これらの施設の機能を確保し、水道事業に支障を生じさせないようにしま す。

#### (3) 琵琶湖疏水通船事業における当面の活用

#### ■ 安全性の確保,外観の美装・軽微な補修

平成 30(2018)年春から琵琶湖疏水通船事業を本格実施し、利用客は、旧御所水道ポンプ室の周辺で船に乗り降りし、ポンプ室を間近で見ることができます。そのため、本格的な改修等を待たずに、利用者の安全を確保するとともに、文化財的価値に影響しない範囲で、外観の汚れを落とす美装を行ったり、軽微な補修を行う対策を講じます。

#### ■ 活用可能スペースにおける付帯施設の整備

水道関連施設の廃止に伴い創出されたスペースに、活用方策に応じて、旧御所水道ポンプ室とは別棟となる付帯施設を導入することを検討します。

付帯施設には、旧御所水道ポンプ室の活用に当たって必要となる機能を備えることが考えられます。

## 3旧御所水道ポンプ室の「改修等」に係る取組

#### ■ 保存修復に向けた検討

旧御所水道ポンプ室の文化財的価値の詳細調査や活用方策の検討を踏まえ,文化財的価値の保存,ポンプ室の活用に向けた適切な保存修復の方法等について,京都市の庁内関係部署や文化庁との協議を行いながら検討します。

#### ■ 保存活用計画の策定

今後活用を行ううえで、旧御所水道ポンプ室の文化財的価値を整理し、保存すべき部分を 把握するための具体的な計画として、保存活用計画の策定を想定します。

#### ■ 耐震診断の実施

「重要文化財(建造物)耐震診断・耐震補強の手引(改訂版)」(平成29年3月,文化庁)に沿って,必要耐震性能の設定,構造調査,構造解析,耐震性の判定という手順により実施することを想定します。

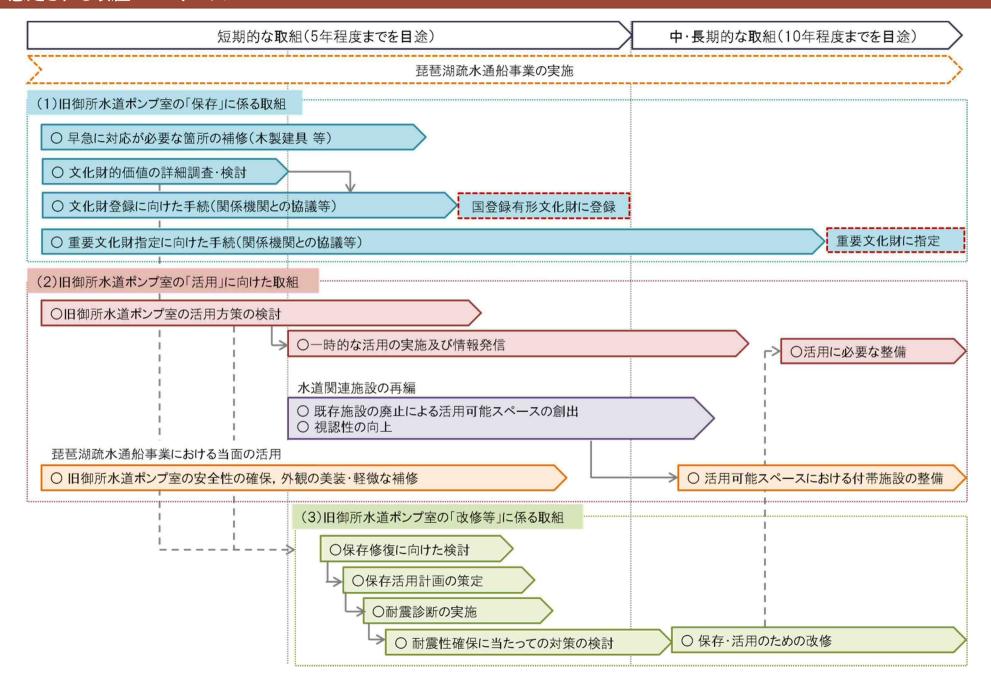
#### ■ 耐震性確保に当たっての対策の検討

耐震性確保に当たっては、旧御所水道ポンプ室の保存・活用方策に応じた安全確保を行う方法を検討します。

#### ■ 保存・活用のための改修

耐震診断結果及び耐震性確保に当たっての対策の検討を踏まえて,具体的な改修計画を作成し,耐震改修を行います。

### 4 想定される取組のロードマップ



## 5 資金確保の手法

旧御所水道ポンプ室の保存・活用に当たっては,多額の資金が必要となるため,資金確保の方法についても検討します。

#### ■ 国等の補助金による資金確保

重要文化財の建造物に対して耐震診断、耐震補強を行う場合には、「重要文化財(建造物・美術工芸品)修理、防災事業費国庫補助」5等の補助を受けることができます。これを活用するためには、耐震診断、耐震補強を行う前に、重要文化財の指定を受ける必要があります。もしくは、「歴史的風致形成建造物」6への指定を受けることにより、対象建造物の修理・復原において、社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業)の補助を受けることができます。これらの補助制度を活用し、資金確保することを検討します。

#### ■ 市民・企業等からの資金確保

旧御所水道ポンプ室の保存・活用に当たり、市民や企業等の皆様からの寄付や、ふるさと 納税により資金調達を行うことも考えられます。国民の共有の財産である旧御所水道ポンプ室 の文化財的価値を守るための保存・活用に対して、市民や企業等の皆様からの理解と協力が 得られるよう取り組みます。

<sup>5</sup> 文化財保護法に基づく、重要文化財の管理又は修理に要する経費について国が行う補助

<sup>6</sup> 地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律(歴史まちづくり法)に基づき, 歴史的風致維持向上計画で 定める重点区域内における歴史的風致の維持及び向上を図るうえで必要かつ重要と認められる建造物を指定

旧御所水道ポンプ室の保存・活用に係る懇談会 副委員長 山田 有希生

琵琶湖疏水通船の復活に関わった一員として、今回の懇談会の委員、副委員長の役目を務めさせていただきました。琵琶湖疏水をさらに学ぶ貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

明治 150 年を前に、産業遺産である琵琶湖疏水は、建設に至るまでの歴史、建設工事の歴史、 利活用の歴史等の意義をあらためて理解、伝承することの重要性が高まっていました。また、新たな 観光商品としての琵琶湖疏水通船の復活の機運が行政、経済界等、各方面で高まっていました。

しかしながら、実現に向けての課題は山積でありました。すなわち、①安全安心の運航確保、②観光商品としての魅力向上、③事業採算性のすべてを満たすというハードルは、決して低いものではありませんでした。

①は、動力付船舶による航行をするうえで、琵琶湖疏水は流れが早く、水路幅は狭く、トンネルは長くかつ複数あるなど、航路は難所続きであります。また流れに逆行する上り運航など、安全運航の確保にはかなりの困難がありました。これらは試行事業の中で、訓練を重ねることで熟練度をあげ、段階的に一つひとつ解決していきました。

②は、お客さまを楽しませる案内ガイドの導入による観光商品としての付加価値向上に努めました。これにより、お客さまは、目で歴史的な建造物や季節ごとの景観を楽しみ、耳で偉人の扁額に込められた意味等の解説を聞く、風や疏水の流れを肌で感じるということを通じて、疏水沿線観光を五感で楽しんでいただくことができました。

③は、新造船の座席配置を工夫し、乗船定員を倍増、上り運航を実現させること、販売努力により 乗船率を高く維持すること等により、クリアしました。

これらにより、多くの国内外の方に乗船していただく機会を生んだことは大変意義深いものだと思います。この事業の規模は大きくありませんが、既存の観光資源を磨き上げ、新たな観光商品を作った「観光創造」、行政・観光協会・商工会議所・民間・市民等、資金や運営面でも皆で創りあげた「観光共創」、行政区域を跨ぐ形での観光という意味での「広域観光」のすべてを具現化した象徴的な事業であり、復活の意義は大きいと言えます。

今後も通船の魅力を高めるため、「明治」「平成」に継ぐ新造船建設による乗船人員の増、年間営業日数の増、ナイター運航、インバウンド向け商品など、商品力がさらに高まる可能性は盛りだくさんです。

そういう意味で、存在、外観だけでも風格がある旧御所水道ポンプ室の文化財指定を前提として、維持改修、文化財としての支障をきたさない範囲での利活用、すなわち通船の乗船客を含む、岡崎・蹴上エリアの観光客が立ち寄り、見学し、くつろげるような施設となればうれしい限りであります。 さらには、乗用可能なインクラインの復活が実現すれば、多くの観光客で賑わうこと間違いなしです。

琵琶湖の浜大津港から出航し、大津閘門を通過、第一トンネルからから各トンネルを経て旧御所水道ポンプ室へ。上りは旧御所水道ポンプ室からはじまり、第一トンネル通過後、一気に琵琶湖へ。 技術や資金面の課題は多いですが、明治のロマンを彷彿させる夢は膨らむばかりです。京都観光の新たなモデル実現、京都観光の分散化(エリア、季節、時間、交通機関)に資するためにも、琵琶湖疏水観光をさらに育成、発展させていきたいものです。

(京阪ホールディングス株式会社 経営統括室事業推進担当部長)

#### 旧御所水道ポンプ室の建築史的位置

旧御所水道ポンプ室の保存・活用に係る懇談会 委員 石田 潤一郎

ここでは、旧御所水道ポンプ室の近代建築史上の位置を、2 つの視点から検討してみたいと思います。第一に宮内省内匠寮の活動歴のなかでの位置、第二に様式的な位置づけであります。

#### 1) 明治末期の宮内省内匠寮の活動と旧御所水道ポンプ室

旧御所水道ポンプ室は明治 45 年(1912)5 月に宮内省内匠寮の設計によって竣工しました。内匠寮は皇室の営繕事務を執りおこなう組織であり、その設置は奈良時代の 728 年にまでさかのぼります。平安時代に修理職と変りますが、明治維新後の明治 4 年(1871)に宮内省内に内匠司が設けられ、同 18 年に内匠寮の名称となります。戦後の昭和 22 年に宮内庁管理部となり、今日に至っています。内匠寮は、数件、外からの設計委託を受託したほかは、皇室ゆかりの建築物――宮殿、御所、離宮、御用邸、宮家邸館、帝室博物館など――のみを手がけていました。その作歴のなかで、旧御所水道ポンプ室のような土木産業施設はほとんど唯一の存在です。

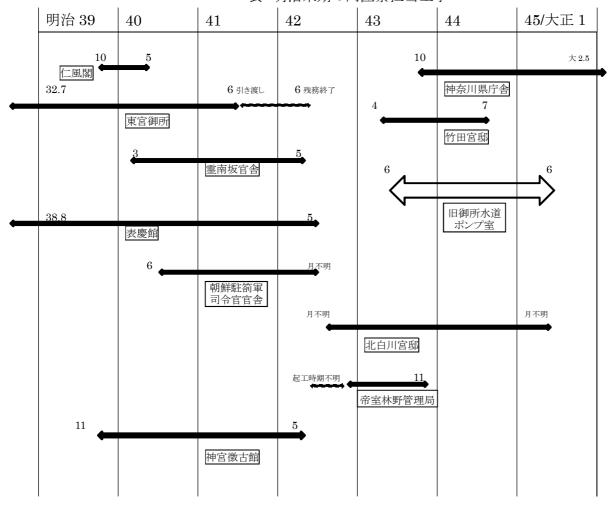
御所水道の計画は明治 33 年(1900) に, 琵琶湖疏水の設計者で京都帝国大学教授を務めていた田邉朔郎の指導のもとで立案されており, 同 34 年と 35 年には宮内省幹部が蹴上の水源予定を視察するなど進捗を見せていました。そこには内匠寮技師の木子清敬も同行しています。しかし, 日露戦争(明治 37 年~38 年) の影響で実施は見送られることになります。明治 42 年 10 月になって実現に向かって動き出し、翌 43 年(1910) 1 月 26 日付で宮内大臣・岩倉具定より内匠寮内匠頭・片山東熊に「京都御所水道敷設ニ関スル工事ノ設計、予算、並関係ノ向へ交渉」を担当するよう下達されました。また同月 24 日には田邉朔郎に御用掛を嘱託しています。同日には田邉とともに内匠寮の主事・三室戸敬光、技師・山本直三郎、技手・林有一の 3 名が大日山(=九条山)の貯水池予定地を踏査しています。ちなみに片山東熊の妻テル(1856~1938) は田邉朔郎の姉であり、二人は義理の兄弟という関係にありました。

明治 43 年 4 月 30 日に片山は工事費についての稟議書を提出し, 5 月 30 日に裁可を得, 6 月 17 日をもって工事に着手します。同 44 年 5 月 25 日にポンプ室の建築工事に着手して,同 45 年 (1912)1月にはポンプ室の建屋はほぼ完成し,3月にポンプ3台を据え付けます。なお,宮内省管轄下にあったときには建物は「大日山水源地喞筒所」と呼ばれました。

3月29日に試運転をおこなって貯水池を満水にしたうえで、4月1日に御所内の消火栓を開いて噴水の高さが紫宸殿を優に越えることを実地検分し、防火水道としての能力を確認するに至ります。 5月11日に実質的には竣工したといえます。5月12日から通水実験をおこない、13日にポンプの運転を開始、14日には久邇宮邦彦王、府知事、市長ら臨席の下、紫宸殿周囲の消火栓の噴水を挙行しました。かくして6月16日に正式に落成を迎えます。

冒頭に述べたように、宮内省内匠寮は皇室関係の建築工事をすべて所管していました。明治末期、内匠寮が手がけていた建築工事を概観してみましょう。

表 明治末期の内匠寮担当工事



上に見られるように、内匠寮は明治 42 年前半までは東宮御所(現・迎賓館赤坂離宮)と表慶館という二つのモニュメンタルな建築を中心に、多くの事業を担当していました。その後、明治 45 年 7 月 30 日に明治天皇が崩御し、大正天皇の即位大礼が執りおこなわれる一方、大正 3 年 4 月 9 日には昭憲皇太后が崩御し、葬場殿、陵墓、大礼施設の建設に忙殺されることとなります。その間の 3 年間は、内匠寮が比較的余裕のあった時期といえます。スタッフの上でも、東宮御所御造営事務局は廃止されるものの、主要な技術者は内匠寮に在籍しつづけました。古参の技師で片山東熊の右腕だった高山幸次郎を明治 41 年に喪うものの、新進気鋭の工学士の木子幸三郎(清敬の子息)が加わります。旧御所水道ポンプ室の工事はまさにこの時期に進められており、内匠寮の設計監理の力が十分に発揮できたものと推測されます。

ここでポンプ室を担当した建築技師について見てみましょう。

片山東熊は嘉永 6 年(1853), 現在の山口県萩市に生まれ, 幕末には少年ながら奇兵隊に身を置いたといいます。明治6年, 工学寮(のち工部大学校と改称。東京大学工学部の前身)第1期生として造家学科に入学, 同 12 年に「一等及第」の好成績をもって卒業します。工部省技手として, コンドル設計の有栖川宮邸の工事に従事し, 宮の渡欧に随行する機会を得ます。明治 17 年から 19 年までの2年間は外務省御用掛として, 北京公使館の設計監理に従事します。19 年末に皇居御造営事務局に出仕し, その完成後の同 21 年には宮内省内匠寮技師となって, 以後, 終生を「宮廷建築

家」として過ごします。片山は、宮内省の管轄下にあった奈良と京都の両帝室博物館を完成させ、明治31年からは東宮御所の建設という国家的事業を率いることとなります。この間、5回の欧米視察に赴いています。彼は大正4年の大礼事業と葉山御用邸の増築工事の激務で体調を崩し、年末に職を辞します。翌5年には勲一等旭日大綬章を受ける栄誉に浴しますが、6年10月、腎臓病で世を去ります。満62歳でした。建築学会による追悼記事に「建築家の最も熱望し理想とする美術建築に、材を惜しまず歳月を限らず、己の欲するが儘に、多年研鑽の技量と自己芸術的理想を発揮し得た」と述べられているとおり、まことに恵まれた生涯であったといえましょう。

後半生は、立場上、事務的な業務に追われましたが、片山は設計を捨てることはなく、自らラフなスケッチを描いて下僚に渡し、或る程度進んだ段階で製図場にやってきて手を入れる事を好んだと伝えます。

もう一人, 連名で名前が挙がるのが山本直三郎です。山本は明治 3 年に愛知県に生まれました。明治 25 年 10 月に内匠寮雇いとなり, 内大臣官舎と新宿御苑洋館御休所の建設に従事します。それまでの経歴は不明ですが, 体系的な洋風建築教育を受けたわけではないようです。明治 31 年に内匠寮技手となり, 東宮御所御造営局も兼務しています。34 年から 35 年にかけて米国出張, 同年暮れから翌 36 年には片山東熊に随行して欧米を視察しました。同 36 年に技師に昇進し, のちには現業課長を務めています。大正 10 年 8 月に退職します。没年は未詳です。ポンプ室ののち, 武庫離宮 (1911~14) を担当しました。

#### 2) 旧御所水道ポンプ室の建築様式

片山東熊とともに工部大学校造家学科を第 1 期生として卒業した辰野金吾は、片山の追悼文のなかで、片山の好む様式は「フレンチルネサンス」であるが、一方で「パラデアンスタイル」を採用した作品もあることを指摘しています。この「パラデアンスタイル」とは、16 世紀のイタリアの建築家アンドレア・パラディオの作風を継承したもので、特に 18 世紀英国において盛んに行われたものです。現在はパラディアニズムと呼ばれることが多く、広い意味での新古典主義に分類されます。なお、A.パラディオ自身の作品はマニエリスム、あるいは後期ルネサンス様式として位置づけられます。

旧御所水道ポンプ室の様式についてはすでにフランス建築史研究者の土居義岳氏が「本来なら実用性だけが考慮されてもいいこの施設には、非常に厳格な古典主義の衣装が着せられている。・・・古典主義的な部分は、骨格のはっきりした全体構成や、ドリス式ポーティコ、隅石などである。勾配屋根とドーマー窓はフランス的である。左右対称で中央にポーティコのある構成は、見ようによってはパラディオ風のヴィラに見える。・・・エンタブラチュア(柱の上にのる水平材)が・・・前後に突出したり後退したりするのは、むしろ分節化を好むイギリス的なルーズなボリュームの構成のしかたに似ているといえよう」と述べていて、パラディアニズムの影響、また英国建築の影響があることを指摘しています。筆者の見るところ、両側から上る外階段を上がったところにポーティコを配する手法は英国のパラディアニズムの特徴の一つであり、この建築の様式上の系統をはっきり示しているといえます。窓の半円アーチを方立で3分割するいわゆる浴場窓はまたパラディオがよく用いたものであり、これもパラディアニズムの表れといえます。

旧御所水道ポンプ室の様式は、しばしば、ネオ・ルネサンス式と説明されます。しかし、一般的に19世紀のネオ・ルネサンス様式はイタリア・ルネサンスの典型的な手法を引用するものが多く、その

点ではネオ・ルネサンスに比定するのはやや無理があります。17世紀フランス建築と18世紀イギリス 建築とを折衷したものとするのが妥当と考えられます。

この建築の外観意匠でもう一つ目を惹くのはルスティカ(粗石)積みの隅石です。ポーティコの端正さ、西側入り口のキャノピーの優雅さと対比して、粗い石の肌を際立たせる隅石のデザインは粗豪に過ぎる印象を与えるかもしれません。しかし、その手法は、壁体の赤レンガを被覆せずにそのまま見せる処理とともに、この建築が機械のための産業施設であることを示すサインであると捉えるべきものといえます。

(京都工芸繊維大学教授)

#### 【参考文献】

- ① 「片山博士を弔ふ」(『建築雑誌』372 号, 1917 年)
- ② 『人事興信録 第5版』(人事興信所, 1918年)
- ③ 中村誠・蔵田周忠「人物風土記第7回 宮廷建築の権威 片山東熊先生」(『建築士』8-81, 1959年)
- ④ 小野木重勝『日本の建築・明治大正昭和 第2巻 様式の礎』(三省堂, 1979年)
- ⑤ 小野木重勝『明治洋風宮廷建築』(相模書房, 1983年)
- ⑥ 土居義岳「図版解説 旧大日山水源地喞筒所」(『日本美術全集24 建築とデザイン』(講談社,1993年))
- (7) 鈴木博之監修、内匠寮の人と作品刊行委員会編『皇室建築 内匠寮の人と作品』(建築画報社、2005年)
- ⑧ 玉野将和ほか「片山家辞令に関する研究─片山東熊の人物像を追って」,(『2012 年度日本建築学会関東支部研究報告集Ⅱ』,2013年)
- ⑨ 浅羽英男「片山東熊 宮廷建築の確立と皇室伝統の継承」(丸山雅子監修『日本近代建築家列伝』(鹿島出版会, 2017年))
- ⑩ 建築研究協会『旧九条山浄水場ポンプ室 耐震調査委託 資料および史料調査報告書』, 2017 年

旧御所水道ポンプ室は、皇室にかかわる近代遺産であり、建築家・片山東熊の珠玉の小作品です。しかし、蹴上船溜の脇に静かに佇むこの建物の由緒や機能について知る人は、専門家と関係者を除いてそう多くはありません。

防火用水を供給する御所水道の設置は、近代における御所の整備のなかでも重要な事業のひとってした。というのは近世期に御所では、主要な建物について9度の造営が行われましたが、そのうち火災による建て替えが6回を数えています。鴨川から引水する御用水は存在したものの、その水は上流域の灌漑用水としての利用が優先されたため、時期によっては涸れることもしばしばで、防火用水としての機能を満足するものではありませんでした。

近代を迎えると、明治政府が近代国家の体裁として火災に強い都市を目指すなかで、象徴的な建物である御所についても、近代的な防火設備の設置が急務とされるようになります。近世期のように焼失と再建を繰り返すのではなく、燃えないことが重要と考えられたのです。

その実現には、琵琶湖疏水が大きな役割を果たしました。まず、明治 23 年(1890)の第1疏水の完成を受けて、従来の鴨川からの水に加え、疏水分線から導水することで御所用水の充実が図られます。しかしながら、それでも防火用の水量としては十分ではなく、明治 30 年頃には蹴上から直接水を引く専用水道の検討が始められました。そして、明治 45 年の第 2 疏水の竣工によって、高圧で御所まで送水可能な御所水道が実現に至ります。現存する紫宸殿や清涼殿など御所の中心建物は、安政 2 年(1855)に造営されたものです。これらの建物をわたしたちが現在見ることができるのは、明治から平成にかけての長きにわたって御所水道が守り続けてきたからにほかなりません。

そもそも防火は、明治 16 年の起工趣意書に掲げられた琵琶湖疏水建設の目的のひとつでした。 防火と不燃化は、わが国の近代において達成すべき都市の課題とされましたが、京都においてはそれを疏水によって実現することが目論まれたのです。たとえば、明治 20 年代の御所用水の整備時には、御苑内のみならず市中をめぐる水路網も計画されました。疏水による防火専用水道として、御所水道のほかに東本願寺の本願寺水道が明治 30 年に竣工しています。また、山県有朋の無鄰菴をはじめ南禅寺界隈の別荘では、疏水の水を引き込んだ庭園が数多く造られましたが、京都市に残された「水力使用者台帳」には、水利用の目的を庭園用ではなく防火用と記す場合が多いことも、防火意識のあらわれとして注目されます。

東京では、煉瓦造建築や漆喰塗の土蔵造建築によって都市の不燃化が進められたのに対し、京都では防火を推進することで、木造建築の優れた文化を継承することが目指されたといえるでしょう。 そこには、都としての地位を失った京都が、歴史都市として存続しようとするプライドと強い意志が込められています。

旧御所水道ポンプ室は、優れた近代建築としての価値を超えて、近代における京都の人々の防火への取り組みの象徴として多くのことを物語ります。都市のレジリエンスが問われる現代において、この小さな建物が発するメッセージは、限りなく強く豊かです。そして何より、古典様式をまとった端正なその姿は、木々の緑と疏水の水面に映えて美しく、他の疏水関連施設、そしてそれらを取り巻く環境とともに、後世に伝えるべき京都の景観として重要です。

今回の基本構想が具体化されることで、京都の誇る歴史と景観が素晴らしいかたちで未来へと伝えられることを切に願います。

(京都大学大学院人間•環境学研究科教授)

#### 旧御所水道ポンプ室の基本構想に向けて

旧御所水道ポンプ室の保存・活用に係る懇談会 委員長 宗田 好史

京都市上下水道局は、2017年度旧御所水道ポンプ室の保存・活用に係る懇談会を置き、その保存活用方法を検討しました。このポンプ室は、宮内省で赤坂離宮等を手掛けた宮廷建築家、片山東熊(1854年-1917年)が設計し、1912(明治45)年に竣工した名建築です。

片山は長州藩に生まれ、奇兵隊に入り戊申戦争を戦いました。明治維新後には、工部大学校造家(建築)学科に学びました。京都では日銀京都支店(現京都文化博物館)を設計した辰野金吾と並ぶ第一期生です。片山の京都市内の作品は、国立京都博物館本館(1895年)がよく知られています。このポンプ室も、小さいながら、ネオ・ルネサンス様式のポーチと円柱付きバルコニーを備えた美しい建築として文化財としての価値は高いです。

今回、このポンプ室の保存・活用が具体化したのは、琵琶湖疏水通船事業が大きく影響しています。その琵琶湖疏水は、言うまでもなく、明治日本を代表する産業遺産です。同時に、京都市民の誇りでもあります。田邉朔郎が、若くして北垣京都府知事に抜擢され、疏水工事に従事したのは1883年、1900年には京都帝大教授に就任しました。この田邉について、京都市では皆さんが小学校で学びます。その折の見学先の一つ、蹴上疏水公園の田邉朔郎像の隣接地に疏水を行き交う船の乗降場が置かれることになりました。そこにこの旧御所水道ポンプ室があります。長らく公開されなかった上下水道局管理のこの名建築を、広く市内外の市民に紹介したいというのが、基本構想の狙いになりました。

懇談会では、このポンプ室を文化財として保護する意義を確認したことは言うまでもありません。加えて、その活用の可能性を基本構想検討作業として具体的な議論を進めました。先生方は、懇談会を終えた後にも、本書に論考を寄せてくださいました。その中で中島節子教授が述べられるように、琵琶湖疏水には防災機能があり、近代京都の人々の防火への取組の象徴であります。特に木造建築の多い京都、それも御所には防火用水が不可欠でした。現在でも、文化財防災への関心の高まりから御所水道復活が提唱されています。また、石田潤一郎教授は、この美しいポンプ室のデザインには当時の英国に見られた新古典主義様式がとられ、ネオ・ルネサンス様式、パラッディアニズムの影響を指摘されています。アントーニオ・パッラーディオは16世紀の初めにイタリアのパードヴァ生れでヴィツェンツァで活躍した建築家です。そこは、ポー川流域の水郷が広がるヴェネト地方で、今も残るヴィッラ(別荘建築)作品群は水辺との関係が強いです。

石田教授は、片山の妻が田邉朔郎の姉であったことも述べられています。疏水の田邉に、片山が パッラーディオで応じたと考えるのも楽しいです。実際、岡崎から南禅寺を経て、インクラインを辿ると 平坦なロンバルディーア平原とは違うとはいえ、ヴェネト地方を髣髴とさせる水の景観が広がってい ます。石田教授の御指摘を思うと、この小建築が画龍点睛となって一帯に風雅な趣を持たせている と思います。

京阪ホールディングスの山田有希生事業推進部長は、こうした経緯、文化財としての旧御所水道 ポンプ室の価値を踏まえた活用を提言されています。京都市が、既存の観光資源を磨き上げ、新た な価値を創造する意義を述べ、京都観光の新たなモデルを明治 150 年に実現したいと述べておら れます。

このポンプ室は、その上の九条山浄水場に水を汲む施設です。浄水場のすぐ前には、関西日仏学館(アンスティチュ・フランセ関西)の「ヴィラ九条山」があります。京都では、九条山はフランス文化の代名詞だった時期があります。

1921 年に着任したフランス大使ポール・クローデルは詩人として名高いです。京都でも都ホテルによく滞在し、東山から比叡山を散策したといいます。1927 年、この九条山に関西日仏学館を創設しました。現在は吉田に移ったとはいうものの、90 年以上に及ぶ日仏文化交流の歴史は九条山に始まると言います。

1912年に竣工した蹴上浄水場は真新しく、岡崎の近代建築群に連なる最新の装いを見せていたでしょう。1927年と言えば昭和の初め、九条山には京津線が走り、蹴上インクラインには往来する船でにぎわっていました。岡崎に勝るとも劣らない京都の近代的景観がこの粟田口から九条山一帯に広がっていました。1929年には、京都大学花山天文台が開設されました。昭和も戦後になると、1959年には東山ドライブウェイが開通し、天文台へも道も整備されました。ドライブウェイを行き交う観光バスは少なくなりました。岡崎から蹴上、日ノ岡から粟田口へと辿り、さらに花山から東山の一帯を散策する人はほとんどいなくなったのです。九条山一帯の歴史的価値、特に近代化し、国際化した京都の重要な舞台となったこの一帯を再評価すべきではないでしょうか。第一疏水が完成した1890年から数えて間もなく130年になります。

岡崎では市立動物園がリニューアルされました。ロームシアター京都が、そして次は京都市京セラ美術館が新装オープンします。すでに浅からぬ歴史を誇る芸術文化の拠点である岡崎一帯は多くの市民、観光客でにぎわっています。さらに、南禅寺の境内には水路閣があり、閑静な境内地からインクラインの下には、ねじりまんぽがあり、煉瓦造りの構造がよくわかります。文化遺産の観点から見れば、京都の明治 150 年にとって琵琶湖疏水は金字塔です。そして、疏水記念館を経てインクラインを登れば、懐かしい疏水公園があり、さらにその先に旧御所水道ポンプ室があるのです。

京都の人々は常に進取の気性に富み、特に明治維新後に京都はすっかり近代都市に生まれ変わりました。琵琶湖疏水と岡崎の文化的景観は、近代京都を知る文化遺産です。そこに旧御所水道ポンプ室が加わり、田邉朔郎の疏水に加えて、片山東熊という優れた建築家が手掛けた名建築をきっかけに九条山に小さなフランス、英国、そしてイタリアが交錯していると見るのも一興です。

明治から昭和を生きた京都の先人たちは、この街で学び、西欧に憧れ、そして未来の日本を夢見ていました。この地には、その夢の種の数々が蒔かれていたと思います。だから、そこを京都で最も美しい庭園に整備し、大きな花を咲かせてみたいとの思いを基本構想に盛り込むことが、文化財としてのポンプ室を活用することになると思います。整備計画は、今後時間をかけて丁寧に作り込んでいけばいいのです。外国人観光客の増加で、また一段と世界との繋がりを強めた国際文化都市京都にふさわしい庭園になるでしょう。

では、具体的にどのような整備が望まれるでしょうか。当然ながら、その文化的歴史的価値を十分に伝える整備でなければなりません。旧御所水道ポンプ室は、まず御所との繋がり、そしてその水脈が琵琶湖疏水であること、さらに明治日本の宮廷建築家として名高い片山東熊の作品であることから、京都の近代史の舞台です。そして、疏水によって開かれた近代化された東山一帯の重要な拠点であり、その後の国際都市京都に繋がる九条山を控えた瀟洒な一画として風情がよく残る場所でもあり

ます。このような場所の意味を市民や旅行者に分かり易く示すように整備してほしいと思います。

実は、通船に当って乗船場の建物としての活用を考えた人もいました。レストランやカフェがあってもいい。少なくとも、見学客の案内、説明、待合、そして休憩施設が必要で、そのために耐震補強が不可欠だとされました。しかし、議論が進む中で、そのような一般の用に供するべき建築なのだろうかという認識が広がりました。先生方には、当初からその思いが強かったと思います。この点について山田部長も即座にご理解を示し、京都の新名所として整備すべき名建築であると述べられました。

京都市上下水道局が管理する蹴上浄水場一帯は京都市民の重要な水源であり、その本義を疎かにすることはもちろん許されません。水道という公営事業の意義も忘れてはいけません。とはいえ、古都京都らしく、その水道施設にも歴史と文化的意味が深いことを思うと、この名建築に限らず、蹴上浄水場一帯のあるべき姿を慎重に検討すべきであると言えます。実際、春と秋には多くの観光客が訪れる場所でもあります。岡崎から南禅寺の一画に留まらず、蹴上から日ノ岡へ、御陵から山科へ、疏水沿いの散策路は、鹿ケ谷から浄土寺に通じる白川疏水、哲学の道に勝る名所として見直されてもいいでしょう。そして、再び京都でのフランス文化の拠点としての歴史を持つ九条山の歴史的意義を国際化した京都の新たな可能性として、再検討してもいいかもしれません。今回の旧御所水道ポンプ室の整備計画を機会に、京都市の文化観光のあり方を再検討し、多くの市民と観光客に愛される文化遺産として整備することが望まれます。

(京都府立大学副学長)

※ 所属・役職等は懇談会開催時点のもの

# 旧御所水道ポンプ室の保存・活用に係る懇談会の概要

「旧御所水道ポンプ室 保存・活用基本構想」を策定するに当たり、京都市上下水道局では、旧御所水道ポンプ室を保存するだけでなく、有効な方法で活用し、琵琶湖疏水の新たな魅力の創出につなげていくため、専門的な見地からの御意見や御助言をいただく「旧御所水道ポンプ室の保存・活用に係る懇談会」を設置し、下記のとおり計4回、開催しました。

#### ■委員一覧

| 氏名       | 所属•役職等                       |
|----------|------------------------------|
| 石田 潤一郎   | 京都工芸繊維大学教授                   |
| 奥 美里     | 京都市行財政局·文化市民局参事              |
| 窪田 裕幸    | 京都商工会議所産業振興部長                |
| 中嶋 節子    | 京都大学大学院教授                    |
| ◎ 宗田 好史  | 京都府立大学副学長                    |
| 山添 洋司    | 京都市公営企業管理者上下水道局長             |
| 〇 山田 有希生 | 京阪ホールディングス株式会社 経営統括室事業推進担当部長 |

<sup>※50</sup> 音順, 敬称略, 所属・役職等は懇談会開催時時点のもの。 ◎は委員長, ○は副委員長を示す。

#### ■開催概要

| 一角性似女     |                   |                             |  |  |  |
|-----------|-------------------|-----------------------------|--|--|--|
| 開催回       | 開催日時              | 議題                          |  |  |  |
|           |                   | (1)旧御所水道ポンプ室について            |  |  |  |
|           |                   | (2)旧御所水道ポンプ室の対診断結果について      |  |  |  |
| 笠 1 同     | 平成 29 年 10 月 31 日 | (3)琵琶湖疏水通船復活事業について          |  |  |  |
| 第1回       | 午後4時から午後5時まで      | (4) 立地ポテンシャルについて            |  |  |  |
|           |                   | ※ 第1回懇談会の開催前に委員による旧御所水道ポンプ  |  |  |  |
|           |                   | 室の現地見学を行いました。               |  |  |  |
| 答り同       | 平成 29 年 12 月 25 日 | (1)ポンプ室の文化財的価値について          |  |  |  |
| 第2回       | 午前 10 時から正午まで     | (2)ポンプ室の立地状況を踏まえた活用の方向性について |  |  |  |
| 第3回       | 平成 30 年 2 月 28 日  | (1)文化財としての取扱いについて           |  |  |  |
| 第 3 凹<br> | 午前 10 時から正午まで     | (2)活用の具体的検討について             |  |  |  |
| 笠 4 同     | 平成 30 年 3 月 13 日  | (1)これまでの御意見の取りまとめについて       |  |  |  |
| 第4回       | 午後2時から午後3時半まで     | (2)御意見を踏まえた方針(案)について        |  |  |  |



## 旧御所水道ポンプ室 保存・活用基本構想

平成31(2019)年4月発行 京都市上下水道局水道部管理課 〒601-8004 京都市南区東九条東山王町12番地 **23**075-672-7759 FAX075-682-2368